

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992700146		
法人名	特定非営利活動法人 もてぎ介護サービス		
事業所名	グループホーム つきのき荘		
所在地	栃木県芳賀郡茂木町大字馬門1373番地		
自己評価作成日	令和3年9月18日	評価結果市町村受理日	令和3年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和3年11月4日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山林に囲まれているのどかな場所に、温かい印象を感じられるような木質化を図り、明るく開放感のある共有スペースをはじめ、プライベートな空間にも考慮し、地域の方々との交流や入居者同士のコミュニケーションが持てるよう「ふれあいホール」のスペースも設けました。又、敷地内の畑には野菜や草花を植え利用者様と共に収穫することによって関わりを持ち、より一層家族らしい雰囲気が持てます。そしてデイサービスやショートステイの事業所と互いに連携を図りながらサービスを行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は茂木町の自然豊かな山間部に位置しており、四季の変化を感じることができる。職員は「支え合って生きる喜び生かされる喜び」という法人理念と「ひとりひとりが主役で笑顔あふれるつきのき荘」という事業所の理念を念頭に置き、より良い支援を目指して利用者に声掛けし、思いを大切に寄り添ったケアを行っている。コロナ禍にあって制限はあるものの、利用者、家族、事業所が繋がりを密にして、利用者が安心安全に過ごせるよう各々に合わせた支援を行っている。また、職員同士の信頼関係のある職場環境を作るよう努めるとともに、職員の資質向上にも力をいれている。温かく家庭的で、利用者も職員も笑顔あふれる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホーム独自の理念、各ユニットの目標を提示し出勤時や会議において理念と共に確認し職員全員が意識しながら日々の支援にあたり共有する事でサービスの向上に繋げている。	理念、職員の心得、ユニット毎の目標を掲示している。職員は日々目にし、月1回のミーティングやそれに伴う勉強会で振り返り、常に念頭に置いて支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今まで行ってきたボランティアや町内の子供達との交流は現在はコロナ感染症対策の為、中止となっている。	以前は、地域の行事への参加、ボランティアの訪問など、地域との交流があったが、コロナ禍以降は制限されている。現在は、運営推進会議など、外部との繋がりを保ちつつ、本格的な交流ができる時に備えて少しずつ計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の勉強会の中で実践を交えながら一人ひとりの対応の違い等認知症の理解と支援に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催しそれぞれの立場から様々な意見があり、報告や情報交換に留まらずサービスの向上に繋げている。(コロナ禍の為、今年は2回のみ実施)	コロナ禍以降は、2か月毎を目安に、対面での会議を2回開催したが、それ以外の時は書面での開催としている。会議での意見等は、地域における事業所の理解促進につなぐなど運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り、事業所の実情や考え方を理解して頂き、より良いサービスに向けて必要に応じて協力や助言を頂いている。	役場とは、日頃から書類提出で訪問したり、電話で密に連絡を取り合うなど、何でも相談しやすい関係を築いている。特にケアが必要な利用者についても、担当者で相談しながら適切な対応をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の会議を開催し、職員は身体拘束に当たる行為を良く理解し、日常の支援の中で尊厳を守りながらも、安全面に配慮しつつ拘束の無いケアを目指している。	拘束にあたる行為、特に言葉の拘束について、職員は常に無くすよう努めながら支援にあたっている。職員同士で言葉遣いや口調について、その場で注意し合い、より良いケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングや全体会議の中で勉強会を実施している。特に言葉による虐待は本人も気づかず見過ごしてしまいがちである為、その場で注意しながら改善に努めている。又、職員のストレスケアを必要と考えている。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び、必要と考えられる利用者が活用できるよう話し合い、認知症の高齢者の自己選択が尊重され、尊厳の守られたその人らしい生活を送る為に必要な知識を身に付けて行ける様、勉強会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際、書類に沿って十分な説明を行い不安や疑問が生じない様個々の立場に立って確認し納得をした上で手続きを進めて行ける様配慮している。入居後も問題点は無いかその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中、面会は行われていない為、意見交換等は電話等で聞き取りをしながら、サービスの向上に繋げている。	利用者からの意見は日常的な支援の中でよく聴くよう努めている。家族には毎月、利用料請求書とともに利用者の報告書と写真、広報誌を送付するなどコミュニケーションに努めるとともに、事業所での支払いの際やこまめな電話などで意見等を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングやユニット会議の場において職員から意見や提案を反映し出された意見は会議で検討し運営に活かしている。	3~4名のユニット会議で出た意見をまとめて、月1回の全体ミーティングで検討している。出された意見は運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今現在は各施設との交流を持つ事は出来ないが、行事等で刺激を持ち、各ユニット毎に目標を作り意欲の向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場での支援を通して、経験や資格のある職員が指導にあたりスキルアップを目指している。法人内での研修は実施できるが、外の機会は今の現状では難しい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在では交流の機会は無いが、町保健福祉課の担当者からの協力のもと取り組んでいる。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に不安が無い様、職員全員が傾聴・共感する姿勢を第一に考え安心して生活出来る様に支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の立場に立って、話に耳を傾け困っている事、不安な事、要望等を良く話し合って支援に反映出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で一番必要としている支援を見極め、事業所として出来る限り対応に努めている。今後も情報収集に努めて行ける様心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と信頼関係を築いて行ける様、毎日の生活の中で喜怒哀楽を共にする事で家族の様な関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様のこだわり、苦しみ喜びを受け止め、利用者様の生活歴や家族様との関わりを大切に、一番の支えである家族様に安心して頂ける様努めている。現在はテレビ電話を利用されている家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は面会等で馴染みの人や町のボランティアとの交流があったが現在はコロナ禍の為会う事が出来ず、ストレスとなっている。	コロナ禍以降、家族との面会も制限していたが、ワクチン接種を条件に、短時間の面会をした事例があった。月1回の美容師の来所は世間話をできる利用者の楽しみになっている。現在は電話や手紙の取次ぎなどの支援をしているが、今後徐々に面会の再開も検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係の理解に努め利用者が孤立せずに共に楽しめる様支援し、一人ひとり支えて行ける様声掛けをしている。中には、難しい利用者様もおられる。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は出来るだけ利用者様との関わりを大切にし、利用者様の気持ちに寄り添い、希望や意向を出来るだけ尊重出来る様、検討している。	職員は、利用者や家族のように生活することによって、利用者の話を聴き、思いをくみ取るように努めている。利用者の気持ちは職員間で共有し、より良いケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や家族様から様子を伺い、これまでの生活環境を把握し利用者様に寄り添った支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に申し送りの中で情報の共有を行い利用者様の心身の状況・状態を把握し安全に生活出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は半年～1年を目安に作成し、状態に変化があればその都度見直している。モニタリングは3か月に1度の見直しを行い、意見や気づきを反映しながら目標の達成度を確認している。	利用者の意向や家族の意見も取り入れながら担当者会議で検討し、介護計画を作成している。入院など、変化があればその都度見直し、利用者がより良い生活ができるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の他に申し送りノート、ご家族の連絡ノートの記録をもとに、情報を共有し新しい気づきや支援経過の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者でもある為、体調によって状態にも変化がありますが、ご家族や医療関係と連携を取りながら本人様主体の支援に取り組んでいる。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、理美容院、病院避難訓練等は感染対策を行いながら安全に暮らして頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の殆どの方はかかりつけ医を主治医とし、家族様対応にて通院されているが、通院が困難な利用者様は訪問診療や介護タクシーを利用する方もいる。	利用者の意向を尊重し、様々な医療機関がかかりつけ医になっており、事業所の協力医がかかりつけ医の利用者もいる。受診にあたってはバイタル表や生活の様子を家族に渡すなど情報のやり取りを円滑にし、利用者や家族に安心した医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は駐在していない為、同法人の別事業所の看護職員に協力して頂き指示を貰う事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、ご家族様や医療機関との情報提供、共有は互いに行っている。面会の難しい時は電話でのやり取りや連携シート等で、行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針としては、看取りは行わない。契約の段階で、出来る事、出来ない事を伝えた上で契約を結んでいる。	主治医の協力のもと、ADLの低下など重度化が進みつつある利用者であっても、医療が必要になるまで、事業所で生活できるよう支援している。主治医から入院の指示があったり、特別養護老人ホームへの勧めがあった場合は家族とよく話し合って方針を決定している。	現在、重度化、終末期に関しては事業所として出来ること、出来ないことを契約時に口頭で説明しているが、その内容を文書化して利用者、家族に示すことで確実な理解を得るよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時の対応について勉強会を行っている。特に職員の少ない時間帯の緊急時でも、慌てず対応出来る様、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の中年2回の避難訓練は出来なかったが、自主訓練を行っている。又、備蓄等もその都度確認しながら見直しを行っている。	命を守る意識を持つことを大切に考え、今年1回の避難訓練を行っている。その都度在庫を見ながら備蓄をしている。避難訓練などの自主訓練を行っている。近所の地域住民に、災害時の利用者の見守りを依頼している。	確実に法令に基づく年2回の消火・避難訓練を行うとともに、勉強会を利用して図上訓練を行うなど、災害対応力を向上させるための工夫を期待したい。

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者への理解やその時々の状態により柔軟な対応が、利用者様自身が自信を保って行く事に繋がる。職員は常に丁寧な言葉遣いや対応に努めている。	同じ苗字の利用者がいるため、苗字または下の名前をさん付けで呼んでいる。利用者のプライバシーに配慮し、トイレの声掛けも小声でさりげなく行っている。広報誌に載せる写真などについても同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様主体での支援に努め、様々な場面での選択肢を設けている。常に仕草や表情の観察から受け取る事で思いが伝わり、意思表示が困難な場合でも良い関係性を築いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課がある中でそれぞれの生活があり時には居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、読書をしたたり一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしのお手伝い出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えたりおしゃれをする事は自身の意識も変わりその人らしい生き方にも繋がる。本人の好きな洋服を選択して頂き、好みの意向に合わせた支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で採れた野菜を新鮮なうちに調理し食べて頂く。年々認知症が進むにつれて難しい事もあるが、出来る事はお手伝いして頂き、一人ひとりの力を活かしながら支援に努めている。	隣接するショートステイ事業所で専門の職員が献立作成、大半の調理を行っている。利用者の希望も取り入れたり、事業所で採れた野菜も提供している。野菜の皮むき、テーブル拭きなど、できることは利用者が力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせて食事形態を工夫したり体重の増減も考えながら、提供している。又、少しでも自立摂取が出来る様、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の雑菌が肺炎の原因になる為、口腔ケアの重要性は職員全体が周知している。義歯の洗浄も、曜日を決め実施している。		

グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録と排泄パターンの把握し、時間毎に声掛けや個々に合わせたタイミングで誘導している。利用者様の自立度や残存能力に応じて支援を行っている。	移動に介助が必要な利用者であっても、全員トイレ誘導している。各々の利用者に合わせて声掛けを行い、リハビリパンツやパットも適切に使いながら、自立した排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日無理の無い体操やお茶の提供、又は食物繊維の食事を提供し便秘予防に努めている。内服薬で対応されている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調と希望を考慮しながら週2～3回を目安に入浴支援している。入浴支援は利用者様とのコミュニケーションの場でもあり会話を楽しみながら入られている。	毎日午後の時間帯に、各ユニット3名を目安に入浴している。拒否のある利用者にも声掛けを工夫している。入浴剤や、季節の柚湯も取り入れて入浴が楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の体調に合わせての休息や入眠に努めている。出来るだけ日中は離床して頂き昼夜逆転しない様、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は最も大切であり、全職員理解しており誤薬のない様、袋に工夫したり三重チェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や日々の暮らしの中から興味や関心のある事を見出し、それを活かせる様な支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出支援を実施しているがコロナ禍の為、控えている時もあったが、少しずつ外出支援も実施できる様になった。	コロナ対策をしながら、四季に合わせた外出を徐々に計画・実施している。町のケーブルテレビを活用しており、身近な場所の様子を映像で楽しんだり、外出先の参考にしている。また、事業所内の庭での草取りや大根のプランター栽培も行い、気分転換を図っている。	



グループホームつきのき荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では利用者様がお金を持つ事は無いが、家族様が遠方の方は、身の回りの物品購入の為事務所で預かりしている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	中には、携帯電話を持っている方もおられ、自由に外部との交流を図っている。ハガキ等のやり取りや行事毎に花を贈って下さる家族様もおられ、その都度電話で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は利用者様一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら季節の花や貼り絵等を各ユニットに飾り快適に生活して頂ける様支援に努めている。	共有スペースは天窓があり日当たりも良い。温度湿度は適切に管理されている。清掃は専任の職員が行う時もあるが、足りない所は職員が手分けして補っている。掲示物はすっきり掲げることを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様とふれあいホールで日光浴をされたり、居室へ招きおしゃべりをされたり、静かに読書をされてすごされている利用者様もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込み、その人らしい居室作りをしている。それぞれの思い出の写真や作品を飾り居心地良く過ごせるように工夫されている。	各居室にはエアコン、戸棚、カーテンが備え付けられている。ベッド、布団、キャビネット、テレビなど、利用者は自由に持ち込むことができる。各々の利用者に合わせて写真や作品を飾り、居心地の良い居室になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はそれぞれ介助バーが設置してあり安全に出来るだけ自立した生活が送れる様支援に努めている。又、デッドスペースが設置されている為、不安や混乱を防ぐ為の個別のスペースで傾聴することもある。		